



東日本大震災から三年目に向けた祈りのお願い

全国のキリスト教会、諸団体、主にある兄弟姉妹の皆様

主の聖名を賛美いたします。

東日本大震災から二年という歳月が経過し、地域によっては復興が進んでいるところもありますが、津波被害の大きかった沿岸地域や原発事故による放射能被害が続く福島県などは復興にはほど遠い状況にあります。

2月に行われた災害対応チャプレン養成研修会に参加した被災地の牧師たちからは、震災後一年半を過ぎてから、むしろ被災地住民の状況は悪化しており、これから本格的な心のケア、スピリチュアルケアが必要だという声が聞かれました。時間と共に経済的サポートが減少する中、各地で懸命に支援活動を継続している教会や支援団体、地域ネットワークからも、種々の格差のひろがりや支援縮小の中、嫉みからのいじめや不安感が蔓延しており、希望の福音を届けていくクリスチャンボランティア、教会の働きはこれからが正念場であるとの認識が広がっています。

JEA理事会は、当初の予定では2013年3月で終えることになっていた震災対策室の働きを、この状況に鑑みて、さらに一年活動期間を延長し、2014年3月まで「教会から教会へ」の支援理念に基づく東日本大震災からの復興支援、および次の災害に備える取り組みとして、継続していくことを決定しました。（その後、通常の援助協力委員会に働きに託されることになります。）

皆様のご関係の教団、教会、諸団体におかれましても、東日本大震災から三年目に向かう祈りとして、日本全国の諸教会の祈りの連帯、アジアおよび世界の諸教会の祈りの連帯があることを意識し、以下の祈りの課題を加えていただければ幸いです。皆様の上に主よりの祝福を祈りつつ、お願い申し上げます。

- (1) 被災による困難、苦しみの中で、主イエス・キリストの愛と希望が被災された方々に届くように。特に心のケアを提供する働き人がさらに起こされ、支援者が燃え尽きから守られるように。
- (2) 現在も支援活動を続けている教会と支援団体、地域ネットワークのこれからの活動のために。特に人材と経済的必要、支援を継続する仕組みが整えられていくように。
- (3) 震災から時間が経過する中で、全国のキリスト者が、祈りと行動をもって被災地域の教会や人々に関わり続けることができるように。特に原発事故による放射能被害が続く福島の諸教会と連帯し、共に生きる意識をもって励まし支え続けることができるように。
- (4) 被災地域に福音が広がっていく中で、諸教会・団体間のよき連携がなされ、新しく生まれる教会と既存の教会が協力しながら、主にある一致をもって地域社会にキリストの愛を証していくことができるように。
- (5) 次の災害への備えを通して、教会と地域の関わりが問い直され、被災地以外の地域でも災害時にキリストの愛を分かち合う準備がなされ、日本のリバイバルへの道備えが全国に広がっていくように。

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたはそれを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」（イザヤ43:19）

2013年3月

日本福音同盟(JEA)東日本大震災対策室 室長 中台孝雄
石田敏則、大井満、小平牧生、佐々木望、細井眞、品川謙一